きならねば、まいり給へり、道のほどの物がたりなどせさせ給ふに、帥殿いたくおくし給へる御氣色のしるき、おかしくも又さすがにいとをしくもおぼされて、ひさしく雙六つかうまつらで、いとさうぐしきに、けふあそばせとて、雙六の枰をめしてをしのごはせ給ふに、御氣色こよなうなをりて見え給へば、殿をはじめ奉りて、まいり給へる人々、あはれになん見たてまつりける、さばかりの事をきかせ給ひけれど、入道殿はあくまでなさけおはします御本性にて、人のさおもふらん事をば、をしかへしなつかしくもてなさせ給ふ也、この御はくやうは、うちたゝせ給ひぬれば、ふたところながら、はだかにこしからませ○かからませ、原作かうまらせ、今據一本改、給ひて、夜半曉まであそばす、

〔今昔物語二十六〕鎮西人打雙六擬殺敵被打殺女等語第二十三

今昔、鎮西□□ノ國ニ住ケル人、合聟也ケル者ト雙六ヲ打ケリ、其人極テ心猛クシテ、弓箭ヲ以テ身ノ莊トシテ過ケル兵也、合聟ハ只有者也ケリ、雙六ハ本ヨリ論戰ヒヲ以テ宗トスル事トスル、此等簒論ヲシケル間ニ、遂ニ戰ニ成ケリ、○下略

〔古事談三僧行〕自京方修行東國之僧、武藏國ニ落留テ、法花經ナド時々讀テアリケルガ、國人ト雙六ヲ打間、多負テ身ヲサヘ掛テ打入畢、勝男陸奥ヘ將入テ馬ニ替トシケルヲ、熊ガエノ入道ガ弘メオキタル一向專修之僧徒聞、不便事也トテ、各布ヲ出合テ請留トシケレバ、此僧モ悅入、勝男モ以三百段雖可被請替、上人奉發憐愍令請給事ナレバ、半分ヲバ不可取、今百五十段ヲ給テ可奉免也ト云ケレバ、念佛者輩モ神妙也トテ、已欲請出之間、念佛輩云、此恩ヲ思知テ、自今以後可爲專修也云々、爰此僧云、縱馬ノ直トナリテ繩ヅラヌキテ奥ヘハ罷向トモ、奉棄法花經、一向專修ニハ不可入トテ涕泣、依之念佛輩、然者不能請出トテ忽分散、仍被付繩以追立、入陸奥方畢、

〔平治物語三〕賴朝擧義兵平家退治事